

OASIS の風

ナースィングホーム OASIS 南

-hear your heart-



R3年 10 月

入居者様の声

**S・T 様：30 代男性：脊髄損傷（人工呼吸器使用中）：ナースィングホーム OASIS 南入居中
口パク・頷き・文字盤・miyasuku**

S 様は今年 4 月より miyasuku を導入されました。導入初期はポイントタッチセンサーにて、主に TV の操作をされていましたが、自ら積極的に操作をされることが少なかったです。今年の 6 月より視線入力が導入され、またインターネット環境も整えました。現在は奥様に LINE でスタンプを送ったり、Hulu で好きなアニメを検索して観る事ができるようになりました。

S 様は「やれる事の幅は広がった。（視線入力導入以前より）
充実している。アニメを観るのは元々好きだったから、
観られるようになって嬉しい。」と喜ばれ、今後については
「もっと視線入力を練習して、ネットサーフィンや買い物をしてみたい」と意欲を持たれています。しかし、良い点ばかりではなく、「視線入力は短文なら良いが、長文だとどうしても時間がかかってしまう。視力が落ちてきていて、画面が見つらなくて困る」という課題も指摘され、「口パクや文字盤を使い分けてコミュニケーションを取っていききたい」と意欲を持たれています。



スタッフの声

「S 様とのコミュニケーション」について伺いました

Y さん：訪問看護師：ケアコール南所属：11 か月
本人様とのやり取りは、声掛けに対し、頷く・首を横に振る等で意思表示されますが、口パクや文字盤でのコミュニケーションは、本人様の訴えがあった時のみで日常的な会話は無く、もっとコミュニケーションを取れるよう信頼関係を築いていきたいです。

miyasuku でのコミュニケーションは視力低下による文字の打ちづらさもあり、今のところ十分には行えておりません。また、スタッフ皆が miyasuku を操作できるように、マニュアルなど作成していきたいと思えます。

トピックス

“脳波による新たなスイッチ”への一歩

手や足、眼球など身体を動かせなくなったとしても、脳の反応を測定して意思を読み取ったり、機械を操作する「BCI（ブレイン・コンピューター・インターフェース）」の研究が進められています。こういった装置の開発により、ALS の方などが「閉じ込め状態」とならず意思を伝え続けられる事が期待されます。

この度のご縁にて、名古屋工業大学の増尾先生が行っている研究に、当社の入居者様が参加協力する事となりました。技術の発展に期待したいと思えます。

